

いしかわ

# まちづくりView

No.20

## 第27回全国町並みゼミ大聖寺大会

『“ ゆったりと行こう ”あつたらもんと共に』	1・2・3
あのまち、このまち“まちづくりめぐり”	
～小松市「小松町家再生を考える会」始動!～	4
～金沢市「若松・鈴見地区のまちづくり」～	5
まちづくりの動き	
「石川県都市計画マスタープラン」決定!	6
まちづくり交付金制度について	7
センターだより	8

財団法人いしかわまちづくりセンター

—今、加賀・山中がおもしろい—

## 第27回全国町並みゼミ 大聖寺大会

特集

# 『“ ゆったりと行こう ”あつたらもんと共に』

～ 急ぎすぎた百年をふりかえり本来の景観を取り戻そう～

### 1. 全国町並みゼミについて

今年9月に北陸で初めて「全国町並みゼミ」を開催

「全国町並みゼミ」は、全国町並み保存連盟の年に一度の一大イベントで、今年で27回目を数え、全国各地で開催されています。ゼミでは、町並み保存やまちづくり、建築など様々なテーマについて、3日間にわたり活発な議論が行われます。

昨年の第26回大会は、重要伝統的建造物群保存地区を有する奈良県橿原市今井町で開催され、全国から町並み保全やまちづくりのリーダー、専門家が集まり、



ゼミ大会旗を引き継ぐ大幸加賀市長



前回大会:かしの・今井大会風景(奈良県)

地元の皆さんを交えて、熱い議論が展開されました。

今年9月には、北陸3県で初めて「第27回全国町並みゼミ大聖寺大会」が開催されます。昨年の閉会セレモニーでは、次期開催地となる加賀市・山中町を代表して、大幸加賀市長に大会旗が手渡されました。

なお、今年は「全国町並み保存連盟」の誕生30周年の記念大会です。この記念すべき大会を機に、みなさんのふるさとの町並みを見つめ直し、本来の「景観」のあり方を考えてみませんか。

### 2. 大聖寺における景観まちづくり活動の歩み

#### はじめに

石川県加賀市・山中町は、かつては加賀百万石の支藩、大聖寺十万石の城下町として栄え、城下町、港町、宿場町など歴史的資産が存在しています。

大聖寺が城下町として形を整えてきたのは、一向一揆が平定された頃といわれますが、城下町の町割は現代まで継承されています。しかしながら、幾度かの災害により、その町並みや文化遺産は減りつづけ、今ではごく僅かに残る程度となってしまいました。

#### 市民活動のはじまり

貴重な文化遺産が徐々に失われていくことに危機感を感じた住民が集まり、平成6年に「大聖寺まちなみ景観整備委員会」を立ち上げました。地元の歴史と町並みを見直そうと、「第1回楽しく歩こう歴史街道」を開催したのが活動の始まりです。その後、旧大聖寺藩内や東京大学などへの一里塚の設置、北国街道への石畳の設置、「まちなみ景観シンポジウム」の開催(平成9年より毎年開催)などを行ってきました。

さらに、歴史的な通りへ名称看板を設置し、観光ボランティア養成講座「加賀江沼ふるさと史跡あないびと」を開講、「大聖寺史跡案内所」も設置しました。



子どもたちによるタウンウォッチング

#### 山ノ下寺院群における景観整備

高い山を持たない大聖寺藩は、西南の丘陵地の麓に防衛線として寺院を計画的に集めたとされています。それが山ノ下寺院群です。寺院群は、7つの寺と1つの神社からなります。

ここでの町並み整備は、平成8年頃から始まり、地元住民が中心となってまちづくり協議会を組織し、町並み整備に向けての「約束事」(歴史的景観整備基準)の作成、地権者への説得、出来上がった建築物等の検査など、積極的な関わりを果たしています。

平成11年には、加賀市の景観条例における歴史的景観整備地区に指定され、徐々に寺院群に相応しい落ち着いた町並みが整いつつあります。



蘇梁館(北前船主の館を移築復元)

#### NPO法人歴町センター大聖寺の設立

平成13年には、これまで中心的に活動を行ってきた有志で、NPO法人歴町センター大聖寺を設立しました。

NPOでは、武士の集合や木戸の開閉の時刻を告げ、大聖寺のシンボルだった「時鐘堂」を歴史的景観整備につなげていきたいと考え、平成15年春、多くの市民の寄進により70年ぶりに再建しました。また今年も、全国町並みゼミの開催に向けての準備や、東京大学西村幸夫教授をホストに全国のまちづくりリーダーをお招きし、町並み保存等についてお聞きする「町並み塾」をサポートするなどの活動をしています。



時鐘堂と高札場(加賀市大聖寺本町)

# 3 日間にわたり全国町並みゼミを開催

## 3. 全国町並みゼミ大聖寺大会の開催

今回の大会では、風土や歴史的町並みが日本の縮図と云われる加賀・山中の地を全国の方々に見てもらい、今後の活動に生かしてゆきたいと考えています。また、「景観とは、目に見える町並みばかりではなく、五感全てで感じるものであり、一年の歳時記や風習など生活全体」と位置づけ、景観の本来の姿を学ぶことを目的としています。

### - 【9月17日(金)】：第1日目 -

全体会〔片山津温泉ホテルアローレ〕

13:30～ 地元視察ツアー

山中温泉湯治場巡り 山代温泉べんがら格子巡り 片山津温泉水郷巡り 城下町大聖寺散策 歴史的遺産周遊 ふるさとぐるーっと全周

16:30～ 歓迎コンサート

17:00～ 開会セレモニー

18:00～ 各地からの報告

18:30～ 歓迎懇親会

20:30～ ブロック別会議(交流会)

### - 【9月18日(土)】：第2日目 -

全体会〔片山津温泉ホテルアローレ〕

9:00～ 全国町並み保存連盟30周年記念式典

10:30～ 基調報告(東大教授 西村幸夫)

11:00～ 活動報告(NPO法人歴町センター大聖寺 埴正浩)

分科会〔各会場〕

13:00～16:30 8分科会に別れてゼミ

20:30～ 部門別町並み交流会

### - 【9月19日(日)】：第3日目 -

全体会〔加賀市文化会館〕

9:00～ 分科会報告

10:00～ 特別講演 永 六輔氏

『町並みをささえてきた職人達』

11:30～ ゼミ総括及び大会宣言採択

12:00～ 閉会セレモニー

12:30～ さよならパーティ

## 各分科会の詳細(第2日目午後)

第1	会場：加賀市瀬越町竹の浦館 テーマ：『町並みは食にあり』 ～ 甲信越・北陸6県の町並み紹介～
第2	会場：加賀市橋立町真宗大谷別院 テーマ：『町並みを五感で体感しよう』 ～ 北前船の里「橋立」での 体験的ワークショップ～
第3	会場：山中町山中温泉無限庵 テーマ：『観光と町並み景観』 ～ 自然環境のまち、商いのまち、温泉街の 保存や再生に取組む3地区の事例紹介～
第4	会場：加賀市山代温泉九谷焼窯跡展示館 テーマ：『文化財の活用と検証』 ～ 山代温泉の史跡と町おこしの現状紹介～
第5	会場：加賀市片山津温泉検番 テーマ：『水辺を活かしたまちづくり』 ～ 水辺をテーマとしたまちづくり団体の活動報告～
第6	会場：山中町今立町集会場 テーマ：『山村の文化的景観の保存』 ～ 取りこわされてゆく山村住宅の現状と挑戦～
第7	会場：加賀市大聖寺蘇梁館 テーマ：『城下町の歴史的資産を活かした まちづくり』 ～ 城下町における景観整備の取組み紹介と 今後の問題点～
第8	会場：加賀市動橋地区鹿野酒造・丸八製茶場 テーマ：『眺望景観の確保』(食談ミニシンポ) ～ 西村幸夫教授と高田宏氏による対談シンポ～ ～ 丘如華氏による台湾における景観整備の報告～

## 併設：協賛イベント

ふるさと名産品おみやげコーナー 九谷焼特別展

山中漆器特別展 ガーデンラリーin加賀2004

加賀のらくやき展 人間国宝「刀匠 隅谷正峯」回顧展

写真展「北前の記憶」、「歴史的町並み写真展」等

大会参加費：一般¥7000円 会員・賛助会員・学生 ¥5000円

## お問い合わせ先

主催 特定非営利活動法人全国町並み保存連盟

第27回全国町並みゼミ大聖寺大会実行委員会

事務局 NPO法人歴町センター大聖寺 担当：瀬戸  
(TEL0761-73-0220)

## 「こまつ町家再生を考える会」始動！！

はじめに

小松市の中心市街地を縦断する北国街道周辺には、城址をはじめ、寺社・町家・蔵・旧銀行など、歴史的資産が数多く存在します。また、お旅まつり、曳山子供歌舞伎、茶道などの江戸時代から受け継がれてきた町人文化を今に伝える行事や活動が盛んに行われています。

この地域固有の歴史的・文化的資産をうまく活かすことこそが、これからのまちづくりのキーワードではないでしょうか？



小松まちなかに見られる町家・蔵

## こまつ町家再生を考える会の設立の目的

本会は、この歴史的文化的な資産価値のある町家を、市民のアイデンティティとして誇りや愛着を持ち、小松のまちづくり・まちおこしの資源として継承する必要があると感じ、平成16年3月1日に設立しました。会員数は40名で、学識経験者、弁護士、建築士をはじめ、プランナー、郷土歴史家、町家住人、行政職員など様々な人種？が参加しています。

## 事業内容

例会（月1回の勉強会）

町家再生のための調査・研究

「町家の様式の調査」・「町家改修の事例調査」・「法制度」など

講習会・シンポジウムの開催

会報

## 【これまでに開催した例会の内容】

第1回例会（H16.3.19）

「小松の町割り・町家の歴史・茶の湯の心」

関戸昌郎会長・川田邦夫副会長・犬丸博雄理事

第2回例会（H16.4.28）

「小松町家の様式」

四尾泰氏（本会事務局）

第3回例会（H16.5.26）

「文化遺産を活かしたまちづくり」

小林史彦氏（金沢大学講師・本会名誉会員）

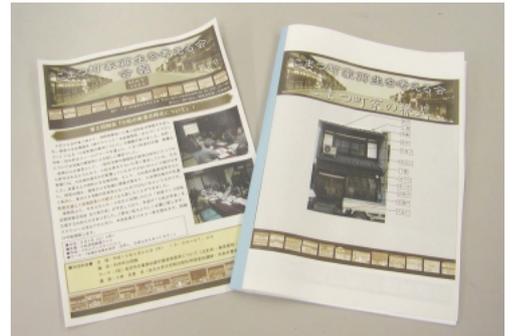
第4回例会（H16.6.23）

「町並み・まちづくりの考え方と事例」

谷明彦氏（金沢工大教授・本会名誉会員）



月1回開催する例会（勉強会）



「会報」と「こまつ町家の様式」の報告集

## シンポジウム開催のお知らせ

今年9月に「地域づくり団体全国研修交流会 石川県大会」の「小松分科会」を本会が主催します。みなさん、ぜひご参加を！

【テーマ】地域の宝物を保存・活用し、元気なまちをつくろう

【日時】平成16年9月4日（土）9:30～

【会場】小松芸術劇場うらら（JR小松駅前）

【ゲスト】

高山純一・金大教授 / 関戸昌郎・本会会長 /

川田邦夫・本会副会長 / 小林史彦・金大講師 /

小間井孝吉・南加賀土木総合事務所長

【問い合わせ】中田吉彦まで（090-5681-8557）

（こまつ町家再生考える会事務局）

## 若松・鈴見地区のまちづくり

### 深化する杜の里衆へ

#### はじめに

昭和60年10月に金沢大学の門前街づくりを目指してはじまった若松・鈴見地区土地区画整理事業は、本年11月末の組合解散を目指して仕上げの段階をむかえています。「区画整理は街づくり」を合い言葉に、街並みの骨格づくりのため地区計画制度をいち早く導入し、また大型商業施設や留学生交流会館などの公益施設を積極的に誘致するなどの街づくり活動を推進してきました。いまその効果は、地区内外の住民の街づくりアンケート結果にも表れているようです。そこで最近の地域住民を主体とした街づくり活動を、いくつか紹介しましょう。



「杜の里俯瞰」

#### 地域住民や学生による街づくりの推進

昨年11月から、地域の子供達、父母や金沢美大の学生を交えた「完工記念モニュメントデザインワークショップ」を、また金大、金沢美大、金工大学生などによる「第二期街づくり計画策定ワークショップ」を開催しました。特に、地域の子供達は、自分たちが提案したモニュメントが杜の里に立ち、また名前も刻名されるので目を輝かせて取り組んでいた



「完工記念モニュメントデザインワークショップ」

のが印象的でした。9月18日には、子供達と一緒に除幕することになっています。

地域おこし支援と「04金沢杜の里祭」の開催  
杜の里商店会が発足したのを機に、商店会主催の「03金沢杜の里祭」が開催されました。まちづくり委員会では、経済的支援のほか、スタッフ支援をしました。今年は商店会祭り・地域秋祭り・完工記念イベントと併せて「04金沢杜の里祭」を地域の総力をあげて開催します。



金沢市立の杜の里児童館は、保留地を市に寄付のうえ、設建築費も負担して建設しました。



「03杜の里祭」

この児童館活動は、街づくりにとっても重要なので、設備の充実や

活動の場の提供などの支援をしています。

#### コミュニティづくり支援

新市街地を整備しても、コミュニティがしっかりできないと街づくり活動も脆弱なものとなります。本地区では 新規町会発足支援などもおこなっています。

#### これからのまちづくり活動のために

昨年4月に換地処分が完了したことから、第二期の街づくりを推進するため、従来の「街づくり委員会」をNPO法人の設立を見据えて「金沢杜の里まちづくり委員会」に再編成しました。区画整理組合員のみによる街づくりから脱皮して、地域全域に巾広く人材を求めてNPO法人の設立をめざしています。

また、平成11年に開設した「杜の里まちづくり



「金沢杜の里まちづくり委員会研修会」

ホームページ」も、社会情勢の変化や杜の里の市街化の進展が著しいことから、全面改訂を進めています。

# まちづくりの動き

## 「石川県都市計画マスタープラン」決定！

石川県では、平成13年度より「石川県都市計画マスタープラン」の策定を行なってまいりましたが、この度、都市計画法に基づく手続きを全て終了し、本年5月11日に都市計画決定いたしました。

都市計画マスタープランとは、石川県における将来のまちづくりの指針を示すもので、県全体における都

市計画の基本的な考え方を示す「石川県の都市計画に関する基本的な方針」、県内を4地域に分けた「広域都市圏マスタープラン」及び県内21の各都市における主要な都市計画の考え方を示す「都市計画区域マスタープラン」の3部により構成されています。

### 石川県都市計画マスタープラン

石川県の都市計画に関する基本的な方針  
石川県全体のまちづくりの考え方

### 広域都市圏マスタープラン（4地域）

奥能登、中能登、石川中央、南加賀地域  
ごとの広域的なまちづくりの考え方

### 都市計画区域マスタープラン（21区域）

都市計画の目標  
区域区分（線引き）の有無  
主要な都市計画の決定の方針

### 石川県全体でのまちづくりの考え方

#### 都市計画の5つの目標

都市計画の理念を“個性、交流、安心を目指した参加型のまちづくり”と定め、5つの都市計画の目標に沿ったまちづくりを推進します。

- まとまりある賑わいのまちづくり
- 快適で安心して暮らせるまちづくり
- 活力ある地域拠点の創造と交流のまちづくり
- 個性ある景観と豊かな自然を活かしたまちづくり
- 住民参加型のまちづくり



コンパクトシティの概念図

#### 都市計画の10のテーマ

石川県には、美しい日本海や白山をはじめとする山並み、城下町として育まれた歴史や文化など、優れた資源が豊富にあります。これらの特性に加えて、少子・高齢化の進展や地球環境問題、住民意識の向上などの都市をとりまく環境の変化に対応したまちづくりが進められるよう、10の都市計画のテーマを定めます。

- コンパクトシティ化
- まちなかの再生
- 快適な居住環境の充実
- 災害に強いまちづくり
- 活力ある産業拠点の創造
- 広域都市間ネットワークの形成
- 都市内公共交通機関等の活用・充実
- 個性ある景観の保全・創出
- 自然環境との共生・保全
- 参加と協働のまちづくり

### 各都市のまちづくりの考え方



（例）金沢都市計画区域マスタープラン【概念図】

### 広域的なまちづくりの考え方



（例）中能登地域広域都市圏マスタープラン【連携イメージ図】

# まちづくり交付金制度について

## 1. 目的

地域の歴史・文化・自然環境等の特性を活かした個性溢れるまちづくりを実施し、地域住民の生活の質の向上と地域経済・社会の活性化を図ることを目的としています。

## 2. 概要

市町村が作成した都市再生整備計画に基づく事業の費用に充当するために交付される交付金です。

事業の流れについては以下のとおりです。

### 都市再生整備計画の作成

市町村は地域の課題、特性を踏まえ、まちづくりの目標とその目標を定量化した指標及び実施する各種事業を記載した都市再生整備計画を作成します。

### 審査

国は、市町村が作成した都市再生整備計画を受け、その「目標・指標・内容」が基本方針に適合しているか審査します。

### 交付金の交付

国は、市町村が作成した都市再生整備計画が都市再生の基本方針に適合している場合、年度毎に交付金を交付します。事業期間は、3～5年となっています。

### 事業の事後評価

市町村は、計画期間終了後、都市再生整備計画に記されている目標達成状況等を指標により評価し、国はその結果をチェックし公表します。

## 3. 交付対象

まちづくりに必要な幅広い施設等を対象としています。

- ・道路、公園、下水道、河川、多目的広場、修景施設、地域交流センター、土地区画整理事業、市街地再開発事業等
- ・高齢者向け優良賃貸住宅、特定優良賃貸住宅、公営住宅等

- ・市町村の提案に基づく事業（一定の範囲内）
- ・各種調査や社会実験等のソフト事業（一定の範囲内）



【（事例）修景施設（せせらぎ水路整備）】



【（事例）多目的広場】

## 4. 石川県における施行地区

平成16年度は、下記の15地区においてまちづくり交付金制度が活用されています。

地区名	市町名
金沢城北地区、金沢中央地区、田上本町地区	金沢市
七尾駅前地区、万行地区	七尾市
小松中央地区	小松市
輪島駅前地区	輪島市
大聖寺地区、片山津地区	加賀市
津幡中央地区	津幡町
辰口地区	辰口町
美川地区	美川町
相木地区	松任市
中島地区	川北町
金丸地区	鹿西町

市町村が自主性・裁量性を最大限発揮することにより、地域の創意工夫を活かした個性溢れるまちづくりを行うことが可能となるとともに、通常の個別化されている事業では得ることのできない相乗効果・波及効果を得られることが想定されます。

# センターだより

平成16年6月19日(土)に県立こまつ芸術劇場“うらら”にて、当センターも加わって開催した「こまつ都市再生フォーラム」が開催されました。

## 「こまつ都市再生フォーラム」(平成16.6.19)

今回のフォーラムは、小松駅周辺整備事業完成後の市街地の街づくりを考えることを目的として市民の手で開催されたものです。

まず開催挨拶として衆議院議員の森喜朗様にご挨拶いただき、ひきつづきマリ・クリスティーヌさんの基調講演が行われました。



その中でマリ・クリスティーヌさんは、外国の様々な街で生活された体験や、小松市の印象を踏まえて「住んでみたい街・訪れてみたい街」というテーマで講演していました。



また、小松の街づくりは市内に残る伝統的街並みの保存や白山を中心とした豊かな自然が軸になり、またそのため街づくりは市民参加が必要であると提案されました。

次に、若者の視点からの市街地の現状と課題を提案するため、高校生街なか探険報告が



行われました。これは今回のフォーラム開催に先立ち、5月22日～29日に当センターとフォーラム実行委員会主催により「小松市高校生まちなか探険」を実施し、そのまとめた内容を報告したものです。

その中で高校生は、駅前広場にベンチを設置してほしい、中心商店街にあるお店の情報をもっと教えてほしいなどの意見を、自ら撮影した写真も交えながら提案しました。

最後に小松市民31人が「住みたい小松ってどんな街？」というテーマを討論する



「市民うららトーク」が行われました。

助言者として増田優一・国土交通省官房審議官(寺井町出身)にも参加していただき、ハコ物にお金をかけず今の街のままで客を呼び込む工夫が必要とアドバイスしていただきました。またコーディネーター(調整役)の園田真理子・明治大学助教授(小松市出身)には郊外に流出した人たちを逆戻しにする仕掛けが必要という話で進行して頂きました。



最後は西村徹市長に講評していただき、多くの意見を今後の方針に生かすためにも、今後も市民の協力は不可欠と呼びかけられました。

## 編／集／後／記

今回は石川県内の金沢市・小松市・加賀市のまちづくりNPOや団体の掲載記事が3件と、バラエティに富んだ記事になったと思います。この他にも県内でユニークなまちづくり活動や団体等紹介したい記事がありましたら、当センターまで御連絡をお願いいたします。

編集協力：石川県都市計画課  
発行：(財)いしかわまちづくりセンター  
TEL 076-225-1905 FAX 076-225-1943  
HP://www.pref.ishikawa.jp/machicen/index.htm  
発行日：平成16年7月